

キリスト者障害者通信
さくほう

共励会創立五十年おめでとうございます。
聖書から「励まし合う」という勧めを聞きましよう。ヘブライ人への手紙十章十九二五節。

十九～二十節。それで兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によつて聖所に入れると確信しています。イエスは垂れ幕、つまり、ご自分の肉を通つて、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださつたのです。

ここには、キリストの尊い十字架の贍いによつて、その血と肉によつて、新しい生きた道が開かれていることが宣言されています。それはキリストの十字架によつて誰もが自由

に神の前で礼拝できる、ということです。障がいがあつてもなくとも、どんな状態の人も、誰もが自由に神の前で礼拝できるように、歩むべき新しい道がイエス様の十字架によつて開かれています。バリアーのある教会ではなく、全くバリアフリーに、誰もが神の前で礼拝できる、そしてこの世を神の前に生かされ歩むのです。

わたしの曾祖父は、子どもの時に家にあつた鉄砲を触つていてそれが暴発し、目に大けがを負いました。子どものころは、まだ見えていたのでしよう、三里の道を歩いて教会に通つたと聞いています。障がいゆえに信仰の

に神の前で礼拝できる、ということです。障がいがあつてもなくとも、どんな状態の人も、誰もが自由に神の前で礼拝できるように、歩むべき新しい道がイエス様の十字架によつて開かれています。バリアーのある教会ではなく、全くバリアフリーに、誰もが神の前で礼拝できる、そしてこの世を神の前に生かされ歩むのです。

そのとき、わたしはとても幸せでした。曾祖父は、ひ孫のわたしの存在を喜んでくれました。声をだして挨拶できぬわたしをとがめることなく、ただ、わたしが生きていることを喜んでくれていました。何か話をしたわけでもなく、ただ握手した、それだけですが、



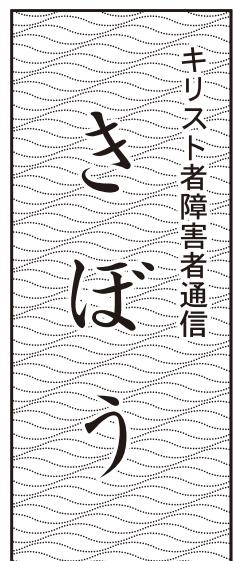
浅野直美 牧師

励まし合つて進もう

本基督教団 兵庫教区伝道部

各種伝道委員会

委員長 浅野直美

No.80
2022.12.1

特 定 非 営 利 活 動 法 人 兵 庫 共 励 会	〒 672-8045 姫路市師磨区中野田四一一六三八
振 替 ○ 七 九 一 二 三 五 一 〇 一 六	○ 七 九 一 二 三 五 一 〇 一 六
印 刷 所 新 生 会 作 業 所	○ 一 一 五 〇 一 五 一 四 二 七 五 八
田 守 男	守 男

目を開かれたといつてもよいでしょう。同志社で学び、視力障がいがありながら妻の助けを得て牧師をし、ほとんど視力はなかつたと思いますが周りの人の理解を得て、近江八幡で近江兄弟社の仕事をしていきました。わたしの曾祖父に会ったときは、彼はもう寝たきりの老人でした。まだ幼かつたころの思い出が鮮明に残っています。曾祖父は日当たりのよい部屋のベッドに静かに寝ていました。目が見えないので、声を出して挨拶しなければいけません。でもわたしは目が見えないで寝たきりで自分で動けない人を見て、何も言えませんでした。とても恥ずかしがりだつたこともあります、なんと言つてよいかわからなかつたのです。何も言わないので、母が「直美が来ましたよ」と声をかけてくれました。すると曾祖父は「おおそうち」と嬉しそうに手を伸ばし、握手しようとしてくれました。母に促されてその手に触れました。暖かくて大きな手でした。嬉しそうに曾祖父は最初のひ孫であつた「私」を喜んでくれました。

実にわたしはそのとき、キリスト教はいいなあと思ったのです。曾祖父の周りの空気の穏やかさ、暖かさ、安心、平和がありました。「そのままでいい」曾祖父はわたしの心に残った最初の信仰者の姿です。目が見えなくて、動けなくて辛いはずなのに、と子ども心に実に不思議な出会いでした。

今、考えてみますと、曾祖父はもう動けなくて教会に行けないけれども、ベッドの上で自由に、神に礼拝を捧げていたのだと思いません。人間の側がどんな状態であっても、ただ恵みによって、十字架の恵みによって生かされることが幸いを思います。今、神の前はバリアフリーなのです。

二二節。信頼しきつて 真心から神に近づこうではありませんか。

わたしたちに大切なことは、生ける神を信頼しきることではないでしょうか。曾祖父はキリスト教の事を何も言いませんでしたが、わたしにキリスト教信仰に生きる姿を伝えてくれました。まだ幼児だった、ひ孫のわたしに、です。この経験は信仰の原点の一つになっています。神の前にバリアフリーでわたしたちは礼拝できる、キリストの十字架によつて。新しい生きた道が与えられたのです。なんと嬉しいことでしょうか。

二三節。約束してくださったのは真実な方なのですから、公に言い表した希望を搖るが

ぬようしっかりと保ちましょう。

共励会はNPO法人になつてキリスト教の文字がなくなりました。けれども、この世に埋没してしまわるために、再臨の希望をしつかりと保つことが大切です。

二四～二五節。互いに愛と善行に励むように心がけ、ある人たちの習慣に倣つて集会を怠つたりせず、むしろ励まし合いましょう。

かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。

ここには励まし合うという言葉が繰り返されています。共励会の歴史は、どんなにつらい経験があつても、互いに愛と善行に励むよう心がけていた方たちの、励まし合つてきました歩みの積み重ねなのです。

わたしも一泊修養会参加の経験がありますが、皆さんの証詞や同室の方たちとの話がとてもよくて、信仰者だからこそ語り合えること、聞ける話、証詞、素直に喜べる時でした。励まし合える関係、この世の中にそのような場はそうありません。

と共に励まし合つて進むとき、神の御心ならば、道が開かれていきます。創立当初のことを思い出します。三島実郎牧師と山口千代子牧師の心に神が思いを起こさせてください、兼清章牧師を神が相生教会にお遣わしになりました。共励会の誕生は、すべて神の業

です。この神のご計画を実現するために何人の地上の人間が動かされ、共励会の歩みが続いています。

わたしたちは、一日、一日、確実に「かの日」に近づいています。その中で、神のご計画がこれからも共励会に実現されますように。ますます励まし合つて進みましょう。



共励会 50年記念礼拝

兵庫共励会二ユース

拡大懇談会

2022年9月29日（木）13：30～16：00
会場 明石証生涯学習センター703号室
参加者数 17名
高野國昭理事から、

①50年のあゆみを振り返り、②現在の状況と課題、③これから歩むべき方向性、④新たなる具体的な取り組みの私案の発題があり、皆さまからの意見を聞きました。

会員の岩村義雄先生や、椿本博久先生も参加され、皆さんでこれからの共励会について考えることができました。皆さまのご意見を理事会で検討して具体的な計画を立案していく事になりました。

50周年記念集会

2022年10月11日（火）10：30～15：00
会場 日本キリスト教団 神戸聖愛教会
参加者数 23名
第1部 50周年記念会社礼拝

説教

日本キリスト教団芦屋三条教会

（内容は、今号の巻頭言に記載しています）



第2部 愛餐会

食事をしながら、自己紹介をしました。

第3部 50周年記念座談会

穂積修司牧師の司会のもと50年の歩みを振り返り、これからの歩みについて懇談しました。（この内容は50年記念誌に記載する予定です。）

シオンビルの贈与を受けました。

兵庫共励会の元理事であられた、古澤輝勝さんが、2022年6月17日に召天され、生前に作成された遺言書の通り、鉄筋3階建ての「シオンビル」の贈与を受けました。

シオンビルは現在、店舗として貸していますので、当面は現状のまま使用してゆきます。



共励会 50年記念集会集合写真

古澤輝勝さんを偲んで



日本キリスト教団 神戸栄光教会

信徒 高野國昭

古澤輝勝さんとの出会いは、

ご夫妻が明石人丸教会から、
わたしが所属している教会に

転会してこられた時でした。

教会では、社会委員会に所属され、問題意識をもって、積極的に活動に参加されていました。私も社会委員会に所属していましたので、親しく交わりをさせていただきました。

私が兵庫共励会と係りを持つきっかけとなつたのは、古澤さんから、「自分は高齢になつて活動が出来なくなつてきたのでは是非引き継いで欲しい」との声掛けがあつたからです。古澤さんは、亡くなられた息子さんの事もあつて、兵庫共励会の活動を長年にわたつて、積極的に活動をさせていたことを後で知りました。

古澤さんは共励会の活動の他、御自分の住んでおられた、明石市魚住の地域で、キリスト教の伝道を積極的にされていました。駅前で自分が作成された印刷物を配布されていましたとも聞いています。シオンビルで榎本保郎

先生のテープを用いて、聖書の集いを長年されていました。

お体もご不自由になられておられましたが、

本当にバイタリティに行動される方でした。

後に知ったのですが、若いころには柔道で体を鍛えられて、警察官になられましたが、老人の施設を造りたいとのビジョンを持たれて、その資金を造る為に不動産屋の経営に転身されたとのことです。

老人施設の設立はできませんでしたが、遺言書を作成され、所有されている財産を、私たちの法人や、教会に全てを贈与されました。

古澤さんは、息子さんと奥様を先に天国に送り、不自由なお体で一人暮らしをご自宅でされていました。コロナ禍もあってなかなか、訪問する機会はなかつたのですが、白井進先生とお訪ねしたことがあります。電動の車いすで迎えに来ていただきました。ご自宅の隣には、キリスト教の印刷物が貼られ、道を通行する人が読み、キリスト教の伝道へ役立てようとされている熱心さを感じました。

その時には、シオンビルでのキリスト教の集会もやむなく出来なくなつてしまつていましたので、残念がつておられました。

古澤さんから、生前に多額の献金を兵庫共励会に頂きましたが、遺言により、鉄筋3階建てのシオンビルの贈与をして頂きました。

古澤さんの意思を汲んで、兵庫共励会がどの

ようにして活用していくかを、神様のみ旨を求めて祈つてゆきましょう。

「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。」

テモテへの手紙 II 4章7節

2022年11月18日の永眠者記念礼拝時に、神戸栄光教会の墓地に埋骨されました。

わたしも、古澤さんにならつて、与えられた生涯を主に仕えて全うしたいと思います。

古澤さん、ありがとうございました。天国で再会しましょう。

編集後記

今号では、50周年記念礼拝で説教をして下さった、浅野直美牧師から巻頭言の原稿を頂きました。

互いに励まし合い、助け合つて今迄の活動をやめる事無く継続し、神様に祈り求めて神様のご計画を進めて行きましょう。

今年のクリスマスも祝福された

時となりますように祈ります。